

【今月の目次】

- 1.ICT 教育支援センターの指導主事による学校への訪問について
- 2.初任者研修 ICT を活用した授業実践研修会について
- 3.ICT 活用ワンポイント講座（ファンクションキー）
- 4.コラム「ICT 活用と学びの履歴」



1.ICT 教育支援センターの指導主事による学校への訪問について

ICT 教育支援センターでは、学校からの要請を受けて指導主事が学校を訪問し、情報教育に関する校内研修や研究会の講師を務め指導助言をしています。本年度の訪問実績は、小学校 13 回、中学校 12 回、高校 6 回となっています。主な内容としては、校内研究会の研究テーマにもとづいた授業における ICT の活用に関する内容や Microsoft Teams などの学習支援ソフトの授業や校務における活用に関する内容、生成 AI の活用に関する内容などです。

授業での活用においては、個別最適な学びと協働的な学びの一体的な充実を念頭に、ICT を活用した児童生徒間での共同編集や他者参照、ルーブリックや授業の流れの提示、授業の振り返りへの活用、家庭学習に係る端末の持ち帰りについてなど、多岐にわたる内容を扱いました。学習支援ソフトについては、教師が日常的に校務で使うことが授業での利活用につながることから、基本的な操作方法に関する内容を中心に扱いました。また、この ypecICT 通信でも何度か話題に挙げた生成 AI に関する研修会の講師の依頼が多かったことは、本年度の特徴といえます。文部科学省から「初等中等教育段階における生成 AI の利活用に関するガイドライン」が示されたことから、教育の現場に生成 AI が導入されてきていることを実感する年となりました。

今後も ICT 教育支援センターでは、各校の要望に対応して指導主事が学校に訪問して校内研修会や研究会の支援を実施していきます。随時対応しておりますので、まずはお気軽にご相談ください。



2.初任者研修 ICT を活用した授業実践研修会について

情報教育の意義と課題について理解を深め、ICT 活用指導力の向上を図ることを目的として、本年度の初任者約 250 名を対象に、標記の研修会を 1 月 10 日、17 日に実施しました。校種ごとに 20 名程度のグループに分かれて、各自が本年度行った ICT を活用した授業実践事例の発表を行いました。通常の講義・演習形式の研修とは異なり、各自の授業実践における様々な苦労や工夫、試行錯誤の過程をお互いに共有する時間を十分にとることがで

き、有意義な研修会となりました。多くの先生方が、ICTを「授業の目的を達成するためのツールとして活用するためにはどうしたら良いか」という視点で実践に取り組んでいたことが印象的でした。

なお、本年度の優れた実践についてはセンターのホームページに3月下旬に掲載し、紹介する予定です。過年度の実践事例も掲載してありますので、あわせてご覧ください。

リンク https://cdb.kai.ed.jp/search.php?mode=category_list&catcd=00000 →【初任研情報技術実践研修（ICTを活用した授業）】

山梨県総合教育センターのホームページからの入り方 【トップページ】→【ICT・研修資料】→【指導案実践事例教材等コンテンツデータベース】→【初任研情報技術実践研修（ICTを活用した授業）】



3. ICT活用ワンポイント講座（ファンクションキー）

Windowsパソコンのキーボードの最上段にある、F1～F12のキーのことをファンクションキーといいます。これを使った作業効率化について3点だけ紹介します。本当はもっと多くの使い道はありますので、よかったら調べてみてください。

F2 キー：エクスプローラーなどでのファイル名の変更、Excelでのセル内の文字の編集

F5 キー：ブラウザーやデスクトップなどでの再読み込み

F11 キー：ブラウザーでの全画面表示



4. コラム「ICT活用と学びの履歴」

ICTを活用した教育活動が広く行われている中で、ICT活用の利点はたくさんあります。「学びの履歴」という観点で考えてみますと、「検索」と「管理（保存）」の2点がポイントになります。

「検索」とは、授業で行ったことや課題などで取り組んだ内容について、教師だけでなく、児童生徒自身がいつでも探すことでできるということです。例えば、授業中のキーワードなどを用いてテキスト検索することで、どのような授業が行われていたとか、教師と児童生徒との間のやりとりについて推察しやすくなります。このことはICTを活用することの大きなメリットといえます。

「管理（保存）」については、紙のプリントは紛失の可能性があります。また、口頭での指示は記録として残りません。しかし、ネットワーク環境の下でICTの活用により、プリントなどの閲覧がいつでも可能となります。

学びの履歴を担保することは、児童生徒にデータへのアクセスを保証することだと言っても過言ではありません。児童生徒とのやりとりが一定期間で消える、あるいは過去のを消さないと次の授業に使えない、これらの状態では「学びの履歴」には残りません。

「検索」および「管理（保存）」の機能を活用する優位性を理解し、授業を進めることが

「学びの履歴」を残すことにつながるのだと思います。

日頃より、授業での ICT 活用について試行錯誤されていると思います。ICT 活用の仕組みづくりには多くの苦労があることは否めません。様々なツールを授業などで有効に活用しそのメリットを享受し、ICT 活用により、児童生徒の「学びの履歴」の一助になればと考えています。



おまけ いまさら聞けない用語解説

今月の用語「URL【ユーアールエル】」

URL (Uniform Resource Locator) は、インターネット上で特定のリソース (ウェブページやファイルなど) の位置を示す「住所」のようなものです。

文部科学省の「GIGA スクール構想」のもとでは、1人1台端末とクラウド環境 (高速ネットワーク環境) を活用して、教師が児童生徒に URL を配付することで、簡単にオンライン教材や参考資料にアクセスさせたり、クイズやアンケートに答えさせて児童生徒の理解度をリアルタイムで把握して効果的なフィードバックを提供したりすることなどが可能となりました。

ICT 教育支援センターでは、各校で取り組んでいることや取り組もうとしていることへの支援に加えて、ICT 機器やソフトウェア、ネットワーク等に関する相談支援や学校訪問など随時対応しております。校内研修や研究会において、ICT 教育支援センターを活用していただきたいと思います。お気軽にご相談ください。

山梨県総合教育センター ICT 教育支援センター

〒406-0801 山梨県笛吹市御坂町成田 1456

TEL:055-262-5508 (直) /FAX:055-262-5572

お問い合わせは [こちらへ](https://forms.office.com/r/wyuB8BRNg2) <https://forms.office.com/r/wyuB8BRNg2>

バックナンバーは [こちら](https://www.ypec.ed.jp/?page_id=6492) https://www.ypec.ed.jp/?page_id=6492